

報告テーマ

米中競争下におけるアジア太平洋の多国間制度

“Regional multilateral institutions in the Asia-Pacific in the midst of US-China Rivalry”

氏名(所属)

福田 保(東洋英和女学院大学)

要旨

本報告の目的は、ASEAN が自らを中心に据える多国間制度に、特に米中などの域外大国を取り込んできたプロセスを検証し、その特徴と課題を明らかにすることである。大国の制度化とは、大国の予測可能な行動様式を促進および定着させることを目的に多国間制度に取り込み、特定の規範・ルールにコミットさせるプロセスのことである。

ASEAN を中心とする多国間制度はこれまであらゆる批判をされてきた。たとえば、ASEAN 地域フォーラム(ARF)は、その進展の遅さからトークショップと揶揄されることが少なくない。しかし、米中競争が激化する今日、対話と信頼醸成を重視するトークショップこそが重要な役割を果たすのではないだろうか。多国間制度の「運転席」に座る ASEAN は、紛争回避・管理を目指し、加盟国間の友好関係構築に努めてきた。また ARF は、アジア太平洋地域において「より予測可能かつ建設的な関係構築を図る」ことを目的に設立された。米中競争が増すアジア太平洋地域において、多国間制度は大国間競争の緩和にどのような役割を果たすことができるのだろうか。緩和に貢献しているとすれば、その要因はなにか。反対に、緩和に貢献していないのであれば、その理由はなにか。

以上の問題意識に基づき、報告では大国の制度化の過程を(1)冷戦終結～1990年代半ば、(2)1990年代半ば～2000年代半後半、(3)2000年代後半～現在の3つの時期に分けて、それぞれの時期における特徴を分析する。制度化プロセスの歴史をたどることで、地域多国間制度に対する大国および ASEAN の政策の継続と変化が明らかになるだろう。そして、大国の制度化の変遷を踏まえたうえで、上記の疑問点を考察したい。最後に、多国間制度の現状と課題を検討する。